

2020 年は新たな時代のスタートに

いよいよ 2020 年がスタートした。相場格言に従うと子年は“繁栄”であるが、どのような一年になるだろうか。1960 年代から 80 年代の子年は株価が大きく上昇したが、前回 2008 年は 9 月のリーマン・ショックに見舞われるなど、波乱の年となった。

そこで改めて 2020 年の主な予定を確認すると、東京五輪・パラリンピックの開催や 5G (第 5 世代移動通信システム) の商用利用開始など、日本経済に影響を与えるイベントが数多く控えている。

2020年の主なイベント	
1月	日米貿易協定(TAG協定)、日米デジタル貿易協定が発効 英国のEU(欧州連合)離脱期限
2月	2月23日が天皇誕生日に
3月	5G(第5世代移動通信システム)の商用サービス開始 羽田空港の国際線発着枠拡大
4月	同一労働同一賃金スタート(中小企業は2021年4月から開始) 残業時間の上限規制が中小企業にも適用 改正民法(契約など債権関係の規定)が施行 改正健康増進法が施行(飲食店などが原則屋内禁煙に)
6月	キャッシュレス・ポイント還元事業の終了 パワハラ防止関連法が施行(パワハラ防止対策を義務化。中小企業は2022年4月から開始)
7月	東京五輪(~8月)
8月	東京パラリンピック(~9月)
9月	マイナンバーカード利用者にポイント還元、マイナポイント事業が開始(~2021年3月)
10月	5年おきに開催される国際博覧会(万博)がドバイで開幕(~2021年4月)
11月	米大統領選挙(選挙人による投票は12月)

さらに、2020 年は東京五輪の開催にともない一部の祝日が移動する。海の日(通常時:毎年 7 月第 3 月曜日)は 7 月 23 日に、体育の日(同:毎年 10 月第 2 月曜日)は名称がスポーツの日に改められて 7 月 24 日に、山の日(同:毎年 8 月 11 日)は 8 月 10 日となる。企業においては、営業日数や休日月の違いなどの影響を受けることになる。

なかでも、3 月から始まる 5G は、携帯電話のみならず、VR や自動運転、AI など関連技術の開発を促し、今後のビジネスや生活環境を大きく変える契機になる。こうしたイノベーションにより、経済成長や産業の新陳代謝が進むと予測されている。

TDB 景気動向調査によると、国内景気は 2019 年に後退局面入りしたとみられる。また、東京五輪後の景気動向については、さまざまな見方が議論されている。さらに働き方改革もいよいよ本格化する一年となろう。今年が 2020 年代という新たな 10 年間を見通す、転換点ともなり得るのではないだろうか。先の見えない時代において、本質を見極めた価値ある情報発信することの重要性を改めて考えるなかで新年を迎えた。

(撞球者)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。